

2/26 (日) こどものひろば1周年

ココマチ2階の「こどものひろば」がオープン1周年を迎え、記念イベントが開催されました。「こどものひろば」には、北関東最大級のボールプールがあり、天候に左右されずに、小さなお子さんが遊べることから、市内外から多くの親子連れが訪れます。

当日は、ボールプールで子ども限定の「宝探し」が行われ、子どもたちは元気いっぱいに景品と交換できる番号札を探していました。また、1階ホールでは、ハンドメイド商品の販売やワークショップ体験も行われました。



2/26 (日) 色とりどりのつるし雛

泉公民館で、「ひなまつり」が開催されました。このお祭りは、公民館の自主講座「つるし雛づくり教室」の受講生を中心に、泉保育所園児や市内活動グループなどが作成したつるし雛やおひな様に関する作品、雛人形などを展示しているものです。

3年目を迎える今回は、女の子の誕生祝いに贈られる一般的なつるし雛のほか、桃太郎や一寸法師といった昔話の主人公の人形など、男の子をイメージしたつるし飾りもお披露目され、訪れた方たちを楽しませていました。



2/26 (日) 市民講座生のお祭り

市文化会館周辺で、25日（土）から2日間にわたり、「フェスタ in YAITA」が開催されました。このイベントは、矢板公民館や農村環境改善センターで学ぶ市民講座生による作品展示や体験教室、作品即売会などを行うことで、市民の交流を図るものです。

このほか、講座生の手作りケーキやおでん、ふるさと創年大学の皆さんによるつきたてお餅の販売、図書館まつり、矢板ウィンドオーケストラによる特別演奏会も行われ、多くの方がイベントを楽しんでいました。



3/1 (水) 開局! やいたつぷるTV

ココマチで、まちの活気を創り出すことを目的に設立されたインターネットテレビ「やいたつぷるTV」の開局式が行われました。開局記念のお笑いライブには、吉本興業のお笑い芸人が出演し、集まった観客を前にネタや軽快なトークを披露して会場を沸かせました。

「やいたつぷるTV」では、矢板の魅力をたっぷり伝えるをコンセプトに、約20人のボランティアが番組制作に携わり、市民参加型の番組を週に5〜6本配信していますので、ぜひご覧ください。



やいたつぷるTV
ホームページ

3/5 (日) 消防団災害対応訓練

市内各所で、市消防団が、集中豪雨によって管轄区域で発生する水害を想定し、土嚢の作成や河川での積み方を実践する水防訓練を行いました。同時に行われた市職員による避難所開設訓練と連携して、要支援者の避難訓練を行った第1分団では、要支援者宅の現地確認を行い、避難者の受け入れ態勢などの確認を行いました。

さらに市職員は、障がい者や高齢者が避難者であることを想定した避難所から福祉避難所への避難者移送訓練も行い、災害時に万全の態勢が執れるよう確認しました。



▲リストと地図を基に、要支援者宅の現地確認を行う消防団員

▲リフト付きワゴン車を使い、福祉避難所への移送訓練を行う市職員

3/8 (水) 自転車のまちに弾み

市役所で、県北を拠点に活動するプロ自転車チーム「那須ブルーゼン」と自転車ブランド「BOMA」の協力のもと、矢板市に対するロードバイク貸与式が行われました。

ロードバイクを試乗した市長は「道路の小さな段差でも走りに影響することがよくわかった。県北一体となったサイクリストの受け入れ態勢づくりを進めるとともに、今後、イベント等で自らトップセールスを行うことにより、自転車を活用したまちづくりに弾みを付け、交流人口の増加を目指していきたい」と意気込みを語りました。



(上写真・左から)
・NASPO (株)
岩井チームマネージャー
・NASPO (株) 前田会長
・齋藤市長

3/12 (日) 被災地の復興を願って

道の駅やいたで、11日（土）との2日間、「震災復興祈願チャリティーイベント」が開催されました。これは、東日本大震災の被災地を支援しようと、毎年この時期に開催されているもので、この日は市内外から訪れた多くのお客さんでにぎわいました。

イベントに参加した方は「震災から6年経ったが、被災地はまだ復興の途中。このようなイベントを通して、少しでも手助けになればうれしい」と、復興への想いを話してくれました。



このイベントで集まった合計169,875円を「東日本大震災ふくしまこども寄附金」に寄附しました。(※振込手数料を除く)

▲「やもり倶楽部」による、つきたて餅のチャリティー販売会

▲「おいしいきのこ届け隊」による、きのこ汁やおこわの無料試食会